

記者懇談会の記録

日時	令和2年12月24日(木) 15:30~16:09
場所	岩見沢市役所 水道庁舎 4階 会議室
記者数	10人

1 雪対策の進捗状況について

(市長)

はじめに、雪の状況です。11月は平年を下回る降雪量でした。ただ、12月に入ってから降雪量が平年の約1.5倍の降雪量で、12月24日現在では累計降雪量が379センチ、積雪深が110センチとなっています。例年のこの時期ですと40センチ程度の積雪状況ですが、今年度は平成23年12月に記録した最大積雪深129センチを大きく超える142センチとなり、12月の観測史上1位を記録しました。12月14日、その後の降雪予報を見込み、除雪体制をレベル3「豪雪警戒体制」に引き上げ、さらに18日にはレベル4に引き上げ、「豪雪対策本部」を設置したところです。次に、運搬排雪の実施状況ですが、市内のバス路線や幹線道路、運搬路を中心に排雪を実施し、12月21日までに延べ64路線、約44キロメートルの排雪を実施しました。なお、12月18日の午後から、北海道と「応援除雪」について調整し、その日の夕方、北海道に「応援除雪」を正式に要請しました。北海道には、少雪地域の道道の除排雪業者を手配していただき、19日午後9時から市道の排雪を実施しています。次に、苦情・要望等の受付状況ですが、12月21日までに825件の苦情や要望が寄せられました。特に21日からは気温上昇の影響で、屋根の雪下ろし業者を紹介してほしいという問い合わせが増えています。次に、豪雪パトロールですが、独り暮らしの高齢者世帯などを巡回調査する「豪雪パトロール」を12月17日から土日を挟んで21日までの3日間で実施しました。このパトロールでは29世帯に対し、生活通路の確保や給排気筒周りの除雪などの支援を行いました。次に、人的被害の状況です。大変残念なことですが、お亡くなりになられた方には謹んでお悔やみ申し上げますとともに、負傷された方に心からお見舞い申し上げます。12月23日現在での人的被害は25件、その内容は、資料に記載の通りでございます。ちょうど今、暖気を迎えており、市は、屋根の雪下ろし作業中の事故防止に向け、かねてから「雪下ろし安全装備」を貸し出しており、貸し出しの際には、作業上の注意点を記載した「雪下ろし安全ガイド」をお渡しし、安全な作業の呼び掛け、あるいは気温の高いときに雪下ろし作業をしないように、といった注意喚起を行っています。ただ、12月12日から22日までの連続11日間、降雪が続きました。12日は降雪1センチでしたので、実質10日間で約190センチの雪が降りました。それでも警報発令が行われることなく、気温が低いままの降雪が続いたことで、大きな影響がありました。

最後になりますが、日本気象協会の発表によりますと、年末年始はこの暖気が一転して冷え込み、降雪も予想されています。吹雪などの影響で視界不良や渋滞などが起こる可能性もあります

ので、市民の皆さまにおかれましては、歩行や車の運転に気を付け、また、状況によっては不要不急の外出を控えていただくよう、安全確保に努めていただきたいと思います。

<質疑応答>

(北海道新聞)

1 点目として、12 月 21 日現在で 64 路線、44 キロの運搬排雪を実施したとのことでしたが、この時期の運搬排雪量としては例年より多いのではないのでしょうか。昨年や例年の状況を教えてください。2 点目として、応援除雪による体制の詳細を教えてください。3 点目として、苦情や要望のうち、その他 383 件にはどのような苦情などがありましたか。

(市長)

昨年は、3 月 31 日までの累計降雪量が 5 メートルちょっと (504 センチ) ということで、クリスマスのころに確か積雪はなかったと記憶していますが、12 月にこれだけの降雪があるというのは平成 23 年のシーズン以来ということです。平成 23 年のシーズンは 11 月から降雪が始まり、12 月 22 日時点で 425 センチでしたが、今年は本日までの累計降雪量が 379 センチで 12 月の 1 ヶ月間だと過去最高、観測史上最高の降雪量を記録したことになります。従って、例年、12 月中に運搬排雪を行うことは、ほとんどありませんでした。年末に運搬排雪を開始する年もありましたが、この時期 (12 月中旬) に排雪作業をフル稼働で、さらに北海道からの応援も併せて実施しているのは初めてのことです。なおかつ、気温が極めて低い中で降雪が続き、その後に暖気の到来を経験することはまさに初めてという状況にもなります。次に、北海道による応援の体制ですが、日によってではありますが 2 セット、現在も 1 セットで対応していただいています。今日も作業予定で 4 日連続となります。これまでの岩見沢では、雪捨て場を効率よく運用するため、市の排雪は昼間に行い、国や北海道の排雪は夜に実施するようにしていました。しかし、排雪作業というのは夜間の方が効率よく作業が行えるため、近々、岩見沢土木事業協同組合と調整し、市内の連合体の夜間排雪のセットを明日 25 日の夜から導入します。これは、岩見沢として初めての取り組みになりますが、効率のいい運搬排雪を実施したいと思っています。次に、苦情や要望、特にその他の項目で特徴的なのが屋根雪についてのものです。降雪によって屋根の雪がかなり多くなったところに暖気が来ましたので、屋根雪に関する苦情が多くなっています。空き家のことも含めて。昨日、栄町で残念ながら亡くなられた方もいらっしゃいました。それから、北真小学校に在籍する児童が下校途中、民家の車庫から落ちた雪に埋まるという事故もありました。幸いにも大事に至らなかったわけですが、このような事態が起きており、落雪に伴う消防の出動も 20 件くらい発生しています。これだけ多くの雪が残ったままで暖気を迎えるという経験がありませんので、しっかりとした対応に取り組んでいます。暖気ということで、外出の際、あるいは屋根の下、軒下を通行する際には十分ご注意くださいように改めてお願いします。雪下ろしの作業などの際には十分気を付けていただきたいと思います。

(プレス空知)

総合的な雪対策として、基準や目安となる降雪量や積雪深に満たない中で除雪体制のレベルを引き上げましたが、そのときの市長の思いや判断のポイントを伺います。

(市長)

確かに積雪深などが体制のレベルを引き上げる目安になっています。まず、レベル 2 からレベル 3「豪雪警戒体制」に引き上げたとき、その時点で積雪深が目安の 123 センチに届いていませんでしたが、降雪予報から、その後の積雪深が目安を超える状況が見込めましたので、早めにレベルを引き上げ、警戒や作業に当たりました。レベル 3 からレベル 4「豪雪対策本部」に引き上げたとき、積雪深は目安の 160 センチに届いていませんでしたが、降雪が連日続いたこと、その後の暖気が見込まれること、バスの運休などの市民生活に与える影響が大きく懸念されたため、早めに体制を移行し、あらゆる対策を打ちました。レベル 3 に引き上げたときにもレベル 4 を念頭に置いた対策を早め早めに打っていこうと実施してきました。

(朝日新聞)

人的被害の状況ですが、例年に比べて特に多いのでしょうか。

(市長)

例年に比べると今年は、落雪などに伴う事故は多いと思います。

(朝日新聞)

昨年、落雪などで死亡した方はいませんでしたか。

(市長)

いませんでした。

(HBC)

人的被害の「未詳」18人は、被害の程度が分からないとか、怪我(けが)がないということですか。

(市長)

ほとんどの方が軽度ですね。

(総務部長)

軽傷までもいかないということです。

(HBC)

年末年始に寒波が来るとのことですが、市民に不要不急の外出を呼び掛けますか。

(市長)

少なくとも 12 月は例年にない気温の変化と降雪が続いていますので、慎重にご判断いただきたいと思います。運搬排雪も年内継続します。年明けの 1 月は 2 日か 3 日から中旬までは排雪作業を継続していこうと思っています。

(プレス空知)

今後の排雪作業の予定を改めて教えてください。

(市長)

排雪作業では、排雪路線を決めています。バス路線を中心とした幹線道路をまず排雪し、それと並行して運搬排雪路線を排雪します。さらに、幹線道路に準ずる地域の準幹線を排雪します。その後、降雪や積雪の状況を見ながら、必要なところを排雪するということになります。排雪路線の総延長が 89 キロありますが、その半分以上は実施しています。となると、当然のことながら、補正予算を臨時議会に上程する想定をしています。まず、年内の状況を一度把握した上で、その後の見込みを立て、必要な予算を確保していく作業に入ります。

(プレス空知)

軽自動車 1 台分の幅しかないような道が相当数あると思いますが、そのような道はどのように対応するのでしょうか。なかなか難しいとは思いますが。

(市長)

実は年内に、地域自主排雪を行う町内会もあります。さらに、年明け早々から自主排雪を実施したいという町内会もあり、現在調整しているところです。除雪に関しては、30 年平均で約 730 センチの降雪量ですから、それには十分対応できています。一晩で約 960 キロの除雪作業をしていますが、経験したことのない降雪が続いている状況だと道路の状況がどうしても厳しくなってきました。夏の道路と同じようにはできませんが、安全確保に最大限の努力をしているのが現状です。このようなことを含め、お出かけの際には十分安全を確保していただき、注意していただきたいと思います。それから、効率的な作業を進めるためには、大きい路線から開けるということが必要になってきますので、国や北海道と調整をしながら進めています。

(北海道新聞)

当初予算の現段階での執行状況を教えてください。

(市長)

まだ正確にはじき出せてはいませんが、運搬排雪の経費は 1 億 8,000 万円の当初予算となっており、それでは不足すると思っています。ただし、先ほど申し上げましたが、夜間の排雪を効率よく実施し、排雪する距離を延ばせることもありますので、今後の状況を見ながらということになります。

2 栗沢市民センターの概要について

(市長)

昨年 8 月から栗沢地区で建設を進めていました「新しい栗沢市民センター」が完成し、1 月 5 日から市民の皆さまにご利用いただける運びとなったところです。なお、通常ですと、オープニングセレモニーなどを予定するのですが、今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オープニングセレモニーは行わないこととしました。新しい栗沢市民センターは、老朽化が進んでおりました旧栗沢市民センター、旧栗沢福祉会館、さらに現在の栗沢文化センターを集約し、旧市民センターの跡地に建設したもので、管理運営は NPO 法人くりさわプロモーションクラブが指

定管理者として担います。施設の概要ですが、約 400 人の収容が可能なホール、会議やサークル活動などに利用できる会議室、あるいは市民活動室などが 7 室あります。さらに、アイランドキッチンを備えた調理室、コミュニティスペースとしてのロビー、テラスを備えています。入り口から入りまして正面には岩見沢に縁のある札幌市在住の日本画家、新田志津男さんの寄贈による日本画の作品を展示しています。さらに、防災機能の強化を図りまして、72 時間の連続運転が可能な発電機を別棟に設置しています。また、段ボールベッドなどの防災備品も備蓄しているところです。なお、今回のオープンに伴い、旧栗沢文化センターを閉館するため、栗沢文化センターが避難所に指定されている、栗沢町本町などの地区については、栗沢市民センターが新しい避難所となります。栗沢支所と並び、防災機能としての役割を果たすことになり、栗沢地区の拠点避難所として、一番重要な避難所になります。栗沢地区は文化活動や老人クラブの活動が盛んですので、コミュニティ活動や文化芸能活動の場として、あるいは安全・安心の拠点として、ご利用していただけることを期待しているところです。

< 質疑応答 >

(プレス空知)

栗沢文化センターを解体した後の跡地をどのように活用していきますか。

(市長)

検討中です。隣接する土地を含めたゾーニングにまだ検討が必要だと思っています。

(プレス空知)

裏には確か…

(市長)

認定こども園があります。認定こども園の駐車場は必要な量を確保しており、遊びのスペースも文化センター側と反対のスペースに確保・整備してありますので、認定こども園との関連というよりは、ゾーニングとして、どうなのかということがこれからの検討課題だと思っています。

(プレス空知)

土地の形が正方形や長方形ではないのですが、ある程度有効に活用できるスペースかと思っています。

(市長)

土地は一定程度確保できるかもしれませんが、栗沢地区の都市機能という面ではおおむねの整備を終えたと考えています。

(北海道新聞)

非常食や毛布などの防災備品は何人分を想定してのものですか。また、栗沢文化センターに発電機能はありましたか。

(市長)

ありませんでした。それから、防災備品は想定避難者数 290 人を想定しています。

3 その他の質疑応答

年末年始の医療提供体制

(北海道新聞)

年末年始の医療提供体制に変更点などはありますか。

(市長)

年末年始の医療提供体制、特に診療体制については、医師会も含め、協議が整いました。PCR検査の受け入れ可能数も含めての調整ですが、市内の各医院、市立総合病院、北海道中央労災病院を含めてですね。休日・夜間の運用もあり、年末年始の新型コロナウイルス対応を含めた医療体制として安心していただける体制が取れたと思います。

(北海道新聞)

例年より多くの病院で対応するということですか。

(市長)

通常の体制で十分対応できるということです。また、医院によっては休日・夜間の当番日でなくても開けるところもありますが、基本的には、外科の当番、内科の当番、小児科の当番を組み合わせ、各院で回します。

新型コロナウイルスに関する市内の現状

(NHK)

新型コロナウイルスの感染状況や医療のひっ迫について、岩見沢の現状を教えてください。

(市長)

南空知は札幌に近接していることから、市民の皆さまや事業者の方々には慎重になっていただきたいと思います。個人ができることとして、感染防止対策の徹底と継続を改めてお願いします。市も保健所と連携し、医療提供体制の確保や機能の充実などに取り組んでいます。

今年1年の振り返りと来年の抱負

(北海道新聞)

今年は市長にとってどのような年でしたか。そして、来年取り組もうと思う地域課題を教えてください。

(市長)

年明けと年末の状況が今年ほど違う年はないと思います。年明けは雪が少なく、東京五輪・パラリンピックが予定されていた年でもあり、自分のこと言えば選挙の年でもありました。東京五輪・パラリンピックという明るい話題の1年になるはずだったが、1月に新型コロナウイルスの感染者が国内で初めて確認されたことから、急激に状況が変わりました。市民生活にも地域経済にとっても非常に大きなダメージがありました。このような状況を長く経験し、その中で分かってきた知見も含め、なんとかこれを乗り切って来年に向かおうと思います。市としてできることは感染拡大防止に努めることと大きく影響を受けた市内経済の対策です。これまで5次にわたる緊急経済対策を行いました。実は、感染症が拡大したときに最初に心配したのは、経済的に

困っている方、特にひとり親世帯でした。一斉臨時休校や休業の影響が大きく及ぶのではと考えて、いち早く制度を立ち上げるとともに、事業者の方々には融資制度を活用していただき、さらに「小規模事業者等経営サポート給付金」として、業種にこだわることなく、前年同月との比較で20%以上の減少があった場合に活用していただける支援を実施しました。その後、これをかさ上げし、第5次の対策として、忘年会や新年会がある年末年始をこれから迎える飲食店にさらに10万円を加算することにしました。しばらくこの状態が続くのだと思います。清水寺で発表された今年の漢字は「密」とのことで、私自身も「密」が思い浮かびますが、このような1年を経験したからこそ、来年は「しぶとく」行きたいと思います。それから、平和の「和」とも思います。人と人のつながりやコミュニケーションを大事にしながら、「しぶとく」行きたいと思います。これからもいろいろなことが起こるし、想定外のことも起こると思います。新型コロナウイルスのワクチンがゲームチェンジャー（状況を大きく一変させるような出来事）となることを期待していますが、当面、厳しい状況が続くということも事実です。来年は、市民の皆さまの生命と健康、経済と事業を守ることに「しぶとく」取り組んでいこうと思います。

（北海道新聞）

年末年始の休暇は何をする予定ですか。

（市長）

暦通りに休暇をいただきますが、1日に1回は庁舎で状況を確認しながら、自宅で過ごします。今年1年いろいろとお世話になりました。また、来年もよろしくお願いいたします。

（注）この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。（作成：総務部秘書課広報係）